

<ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係>

社会的ニーズ	<p><社会的背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ○深刻な少子化問題 ○子ども虐待件数の増加 ○子ども虐待事例の多様化・複雑化 ○子ども虐待対応の専門職の絶対的不足 ○「こども家庭庁」の設置 ○子ども家庭福祉領域に関する国家資格創設の検討 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所、市町村の体制強化 ○リスク家庭の早期発見・相談体制の構築 ○児童養護施設、保育所等の職員の専門職性の向上 ○諸機関、多職種と連携した包括的支援体制の構築 ○複雑な課題に対応できる高度な専門性の要求
--------	--	---

キャリアパス	<p>下記のような施設・機関において困難な状況を主導的かつ協働的に解決でき、リーダー的な役割を果たし得る専門職を輩出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所や市町村等の行政機関における虐待対策の専門職 ○重篤な虐待を受けた子どもへの治療的なケアを実践できる基幹的な施設職員 ○子ども虐待の早期発見と支援を実践できる保育所や幼稚園、認定こども園等のリーダー的職員 ○虐待リスクのある子どもと家族への包括的な支援を多職種で連携し、地域で展開できる児童家庭支援センター等のリーダー的職員 ○県並びに市町村等、行政職のリーダー的職員 <p>さらに、将来的には理論と実践を結びつけて新たな知見を導き出し、研究的視点に基づいた現場改革を推進するとともに、次世代の専門職の育成を担うことができる人材に育っていくことを期待する。</p>
--------	--



養成する人材像	<p>各分野で活躍できる以下のような資質・能力を備えた人材の育成に向けて教育・研究活動を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉の分野において、虐待・ネグレクトが子どもに与える心理的・精神医学的影響及び虐待を生じる親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、虐待相談業務や子どもへの治療的養育、心理的ケアを担当できる高度な技能を有する人材。 2. 保育・幼児教育の分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保育所・認定こども園等を基盤とした子ども及び家族への支援を提供できる高度な技能と実践力を有する人材。 3. ツーシャルワークの分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保健、医療、教育などの諸機関、多職種と連携し、虐待リスクのある子ども・家庭を支援するための包括的支援体制を構築できる人材。
---------	---



ディプロマ・ポリシー	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども虐待を地域の福祉課題として捉え直し、子どもや家庭のウェルビーイングの増進やソーシャルワークの実践など、子ども家庭福祉などに関する高度な専門的知識を修得している。 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度な専門職としてスーパービジョンを実践し、子ども家庭福祉などに関する諸機関との連携を推進する能力を修得している。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども家庭福祉などに関連する理論と実践を結びつけ、課題解決に向けて論理的に考察する能力を修得している。
------------	--	--	--



CP能力を修得するための設置科目の例	<p>基幹科目</p> <p>子ども虐待領域</p>	<p>関連科目</p> <p>子ども理解領域</p> <p>ソーシャルワーク領域</p>	<p>実習・演習科目</p> <p>実習科目</p> <p>演習科目</p>	<p>研究科目</p>
	<p>基礎科目</p> <p>科目</p> <p>「人間福祉学特講」</p> <p>「スーパービジョン特講」</p> <p>「人間福祉学研究方法」</p>			



カリキュラムポリシー	<p>①</p> <p>高度職業人として必要な知識と技術を修得するために、人間福祉の理論に関する「人間福祉学特講」を「基礎科目」の一つとして配置し、必修とする。また、子ども虐待の臨床をより深く理解するための科目を「基幹科目」と位置づけ、そのうちの3科目を必修とする。さらに、様々な領域・実践現場において虐待問題に関わる対応力を高めるために「関連科目」を選択必修科目として配置する。</p>	<p>②</p> <p>対人援助の実践能力や組織改善に向けたスーパービジョンの能力を高めるため、「スーパービジョン特講」を「基礎科目」の一つとして配置し、必修とする。また、「実習・演習科目」を選択必修科目として配置する。</p>	<p>③</p> <p>「実習・演習科目」での実践を基に、修士論文又は特定課題の研究レポートを作成する際に求められる分析力や研究力を培うため、「人間福祉学研究方法」を「基礎科目」の一つとして配置し、必修とする。また、「研究科目」を選択必修科目として配置する。</p>
------------	--	--	---

アドミッションポリシー	<ol style="list-style-type: none"> ① 修士課程の学修の基盤となる子ども家庭福祉及び人間福祉に関する基礎的知識を有している。 ② 子ども家庭福祉及び人間福祉に関する高度な実践のために、論理的な思考力、柔軟な発想力、基礎的な省察能力、及び、コミュニケーション能力を有している。 ③ 子ども家庭福祉及び人間福祉について、現状に対する問題意識を持ち、実践と研究に取り組む意欲を有している。
-------------	---



想定する学生像(職種)	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭福祉、幼児教育・保育、ソーシャルワークの各分野における一定の基礎的な知識・技術・実践力を有する者 ○子ども家庭福祉、幼児教育・保育、社会福祉等の諸機関・実践現場で働いている社会人 ○特に幼児教育・保育の分野については、短期大学卒業(准学士号、幼稚園教諭二種免許状保有者)の保育者 ○大学で福祉、幼児教育を学んだ学生
-------------	--